

道徳学習指導案

指導者 松田 鯉栄

- 1 日 時 平成24年11月1日(木)
- 2 学 年 第5学年2組 27名 [5年2組教室]
- 3 主 題 名 責任を果たす [4—(3)社会的役割の自覚と責任]
- 4 資 料 名 「残った仕事」(出典「希望を持って」東京書籍)

5 主題設定の理由

○ 人はだれでも自分の好きなように行動したいと思っている。だからといって、みんながそうしたら社会生活は成り立たない。人間社会では、おのおのが社会的役割を担い、その責任をきちんと果たすことが原則である。人々の自己中心的な言動が多く見られる今日、この主題の価値はきわめて重要である。

この時期の児童は、地域や家庭はもとより学校生活においても、重要な役割を課せられることが多くなる。そして、その役割の大切さは十分認識できているものの、時に、遊びに誘われたり、仕事がめんどろになったりすると、ついおろそかになりがちである。そこで、一人一人が責任を果たすことが周囲の人々の役に立っていることや、自分自身の喜びに感じられることにも気付かせ、自分が担っている役割を進んで果たそうとする道徳的態度高めていきたい。

○ 本学級の児童は、委員会や係などの仕事を意欲的に行い、自分の役割を果たそうとしている。特に、高学年として、児童会や学校行事などにおいて、学校の一員としての役割や責任をしっかり果たそうと頑張る姿が見られる。一方で、仕事をするのを忘れて、声をかけられないと仕事をしない児童や、自分の仕事を人に任せがちな児童もいる。また、決められた仕事、責任の所在が明らかな仕事に関しては積極的に取り組むが、自分で考えて仕事を見つけたり、自分で気づいて進んで仕事をすることは苦手な傾向がある。

○ 本資料「残った仕事」は、図書係の仕事を「ぼく」、道夫、佐代子の3人で果たそうとするが、道夫がドッジボールに行ってしまう結局できなかったという内容である。

指導にあたっては、まず導入の段階で、学級や学校だけでなく地域や家庭のなかでの自分の役割を考えさせたい。そのことにより自分たちの役割を再確認できるとともに、資料への関連づけができると考える。

中心発問では、責任の在り方や取り方について十分考えさせるために、「明日から新しい本を貸し出すことができなくなった」と思う「ぼく」が、遊びに行った道夫の行動やそれを許して仕事を引き受けた佐代子の態度をどう思ったかを吹き出しに書かせる。その際、役割を果たさなかったことでみんなが困ったり、がっかりしたりするのを感じさせ、集団の中で自分の役割を果たすことが、みんなのためになるということを理解させる。

価値の一般化を図る場面では、やり遂げた仕事シートを活用し、自分たちの生活を振り返って、友だちがどのような場面できちんと役割を果たしているかを書かせる。それを発表することで、誰がどんな仕事に責任を持って取り組んでいるのかを全体で共有し、互いの仕事ぶりを認め合う雰囲気をつくっていく。

6 準備物

ワークシート，登場人物の絵

7 ねらい

- 仕事が残ってしまった後、「ぼく」は、道夫の行動と佐代子の態度に対してどのように思ったかを考えたり話し合ったりすることを通して、集団の中で進んで責任を果たし、協力しようとする道徳的態度を養う。

8 本時のポイント

- 集団の中で進んで責任を果たす道徳的態度を養うために、やりとげた仕事についてのシートに記入し、話し合う活動を取り入れる。話し合いを通して、それぞれが学級や学校のために役割を果たしていることやそれをきちんと見ている人がいることに気づかせる。互いに肯定し合うことでよりよい関係を作り、集団の中での責任を進んで果たそうとする意欲を高めていきたい。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 自分が担っている役割について話し合う。	○学級や学校，地域や家庭の中で今どんな役割を持っていますか。 ・委員会活動 ・係活動 ・掃除当番 ・給食当番 ・食器洗い ・ゴミ出し	○ 係や委員会だけでなく，経験の範囲を拡大してとらえさせる。

<p>2 「残った仕事」の前半を聞き、仕事を始めたときの「ぼく」の気持ちを話し合う。</p>	<p>○校庭から楽しそうな声が聞こえてくる中で仕事を始めた「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなことはやめて、いっしょに遊びたいな。 ・早く終わらせて遊ぼう。 ・明日貸し出すためには、頑張らなくちゃ。 	<p>○ 自分でも遊びたいのを我慢している主人公の気持ちに共感させる。</p>
<p>3 佐代子が仕事を引き受け、道夫がうれしそうに出ていったのを見た「ぼく」の気持ちを話し合う。</p>	<p>○「いいわ。わたしやってあげる」と佐代子が言い、道夫がうれしそうに出ていったのを見た「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ佐代子は勝手に引き受けたんだろう。 ・仕事ができなかったらどうするんだ。 ・道夫はずるいな。 	<p>○ 係としての責任を考えない道夫や、勝手な行動を認めてしまう佐代子に対して、批判的になっている「ぼく」の気持ちを理解させる。</p>
<p>4 「明日から貸し出しができなくなる」と思った「ぼく」の気持ちを話し合う。</p>	<p>◎「ぼく」は「あしたから新しい本を貸し出すことができなくなった」と思った時、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに迷惑をかけることになってしまった。 ・道夫は係の立場を全く考えていなかったんだ。 ・仕事を引き受けた佐代子も、もっと真剣に考えるべきだ。 	<p>○「ぼく」の気持ちを吹き出しに書かせ、話し合わせる。</p> <p>○道夫の無責任さと同時に、佐代子も引き受けたからには責任があるということを考えさせる。</p> <p>○「明日からみんなに貸し出す」という目的を果たさないことが、クラスのみんなにも迷惑をかけることに気づかせる。</p>

展開後段	5 やりとげた仕事シートに記入し、発表する。	<p>○学校生活の中で、自分の役割をきちんと果たしている友だちについて書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは、図書委員の当番の時、表紙がこわれかけていた本の修理をしていた。 ・○○さんは、黙って掃除をしている。自分の担当が終わったら、すぐに友だちの手伝いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの友だちの役割へのかかわり方について振り返らせる。 ○ 話し合うことを通して、お互いの仕事ぶりを認め合い、よりよい関係づくりを実感させる。
終末	6 「やりとげた仕事」について振り返りをする。	○「やりとげた仕事」についての感想を発表しましょう。	○ 自分が認められたうれしさを引き出し、次の意欲へつなげる。